

マレーシア国クアラルンプール市-東京都/さいたま市に関する都市間連携

東京都とクアラルンプール市(KL市)は、2019年度から、建築物の環境配慮を促す制度設計で協力してきました。2022年度からは、KL市のカーボンニュートラル街区の実現を目指す取組について、東京都に加え、さいたま市と民間企業のノウハウ・知見を共有するサポートを行っています。

マレーシア国KL市

多くの国に先駆けてカーボンニュートラル(CN)の2050年目標を宣言。CN実現に限らず、SDGsの達成およびDXの実装にも取り組む。

東京都

2050年ゼロカーボン、2030年半減に向けて建物対策で世界で最先端の取り組みを進める。都施策の発信や海外都市との交流により世界の脱炭素化に貢献することを目指す。

さいたま市

電気自動車普及施策「E-KIZUNA Project」や、ゼロカーボン街区開発の国内先行事例である美園地区を擁する。

マレーシア国クアラルンプール市-東京都/さいたま市に関する都市間連携

東京都	<p>Wangsa Maju Carbon Neutral Growth Centre</p> <p>6 Strategic Zones in KL</p>	KL市
さいたま市		脱炭素街区構築に向けて脱炭素政策を拡充
持続可能なエネルギーマネジメントの支援		Loop 技術情報
IGES: 全体コーディネーター		UTM (マレーシア工科大学) 現地コーディネーター

KL市長は 2050年カーボンニュートラルを目指し、プラットフォームとして“ワンサマジユ・カーボン・ニュートラル成長センター”構築を宣言

SEDA
(持続可能エネルギー開発庁:ローカル)
の状況を踏まえた知見の共有

2022年度 活動

- キックオフセレモニーの開催：1回
- 国際会議での発表：4回（COP27、脱炭素都市国際フォーラム、E-KIZUNA グローバルサミット等）
- 事業関係者の打合せ回数：3回
- 渡航回数：KL市へ1回、東京都へ2回、さいたま市へ1回
- アジアの他都市への知見共有：1回

2022年度 成果

- “ワンサマジユ・カーボン・ニュートラル成長センター”の20のアクションのうち少なくとも半数が実現
- 東京都の建物制度の強化やカーボンハーフに向けた取組を説明
- さいたま市の関係事業者が有する技術でKL市のニーズにマッチしたものが判明、現地適性の議論開始
- 東京都とKL市は、2019年度～2021年度の三年間（フェーズ1）、東京都の建物の脱炭素化に関する施策やノウハウをKL市に移転し、事業期間中、KL市のゼロカーボン宣言に至った。その功績を称えて、C40 Cities Bloomberg Philanthropies Award（「気候ムーブメント」部門）を2022年10月に受賞

<p>E-KIZUNA グローバルサミット</p>	<p>High-Level Talks セミナ 打合せ</p>
<p>ワンサマジユ ソーラー発電型LED街路灯</p>	<p>Mayor of KL Mayor of Kyoto TMG Iskandar Youths</p> <p>The youths suggested an information exchange session between youths from both countries could be informative. The youths hoped the case would be shared with other in Malaysia.</p> <p style="text-align: right;">UNFCCC-COP27</p>

